



りんどうかい 輪読会

お気軽にご参加下さい。
(見学でも結構です)

経論の原文と現代語訳を、少しずつ読む会。

ごだんしょう
五段鈔とねこ

『^{はんじゅさん}般舟讚』に^い云わくから読みます。(38ページ12行目から)

前回の内容まとめ

^{しか}然れば^{れんごう}連劫にも身を〜 (36ページ6行目〜38ページ11行目まで)

- それゆえ日時が尽きるまで、力の限りを尽くし感謝するといひ → **長時修**
感謝の心が生じたならば懺悔の心を発しなさい。人は念じると、仏もまた念じてくださる。
これ以降は、具体的な指南部分。発想転換の仕方、理解の方向性の変え方について書いてある。

五段鈔とは
仏教の世界観

基本中の基本であり、この世界をどのように捉えていくかということの「秘訣」が書いてある奥深いものでもある。
お釈迦様の持つ科学力に、ようやく現代が少しずつ追いついてきている。真実を理解することが、念仏そのものである。
内側で葛藤が起こっていることが大事。多くの人は外側に解決を求めるが、教えによって内側に求めることを勧めている。

さんじん
三心とは
念仏者の要件

至誠心	誠の心	世の中の本質を学ぶ	薬は辛い	それを受け入れること。
深心	深い心	内側(機)	外側(法)	が一体となる姿。
回向発願心	人生で起こる出来事	があるが	ままに捉え、	正しい方向に向けていくこと。

ししゆ
四修とは
念仏の実践方法

^{くぎょうしゆ} 恭敬修	目の前の全ては私の真実の姿として、	恭しく敬うこと。	瞬間、瞬間の気づき。
^{むよしゆ} 無余修	心におこる葛藤を、	あるがままに受けとめ、	調和をもってとらえること。
^{むけんじゆ} 無間修	間(あいだ)なし。	心の内と外は一体。	心の反映が外界である。
長時修	生まれて死ぬまで。	朝起きて寝るまで。	行住坐臥。

5月12日(火) 13:30 ~ 15:30

令和2年

場所：京都西山短期大学3階 教学研究所研究室
西山浄土宗 教学研究所 中部分所
お問い合わせ 090-3657-1144 (担当 守中隆明・ショートメール可)